

13. 平成20年度 にしんの森再生プロジェクト実行内容



14. 調査のまとめと課題

項目	調査内容	解析結果	課題
森林	目標林2林分、再生事業区4林分、対照区5林分、の計11林分の樹種構成の調査。	目標林の主要構成種は、トドマツ、イヤタ、ミズナラであり、その他、シナノキ、ハウチワカエデ、ホオノキ、ダケカンバ、ハリギリ、コシアブラ等を混生する。再生事業区、対照区で特徴的に欠けるのはミズナラの大径木である。	林分の調査面積が不統一であり、解析の精度を上げるために、面積が足りない箇所の補完調査が必要。
哺乳類	哺乳類痕跡調査、ネズミ捕獲調査。	3地区で、キタキツネ、タヌキ、ヒグマ、エゾシカ等の9種の哺乳類を確認した。	リストの補完。 目標林(候補①)での調査(鳥類、は虫類、両生類、昆虫類も同様)。
鳥類	ラインセンサス、定点調査。	3地区で、22科47種の鳥類を確認したが、ライン数が少なく、また明確な環境変化が少ないため、森林環境と鳥類出現種数の明確な相関性は見られなかった。	キツツキ、カラ類の樹洞性鳥類のデータ蓄積が必要である。調査適期(4月下旬～5月末までの2回)のラインセンサス継続調査。林分調査区をカバーしてない箇所の補完調査。
は虫類 両生類	ラインセンサス	エゾアカガエル、エゾサンショウウオの生息を確認した。	リストの補完。
昆虫類	任意採取調査、ベイトトラップ。	任意採取調査により生息種のリストを作成した。ベイトトラップにより19種420個体のオサムシを捕獲したところ、樹林性の種が多く出現した。	リストの補完。 林床植生に変化を持たしたベイトトラップサンプル数の増加。